

新任教員紹介

氏名 上田 由紀子 (うえだ ゆきこ)

所属	人文学科 欧米言語文学講座
職名	教授
発令年月日	2016年4月1日
最終学歴	神田外語大学大学院言語科学研究科博士後期課程(言語科学専攻)博士(言語学) 神田外語大学
担当授業科目	学部：言語学、英作文、英語専門文献読解、言語と人間、英語学講読(統語論)、英語学特殊講義(統語論)、英語学演習(統語論)、英語学卒論基礎演習、英語学卒論発展演習、英語学卒業論文 大学院：人文学総論、英米語論(総論)、英米語論演習(統語理論) 英米語論演習(構文研究)、欧米言語文学演習
研究活動の概要	<p>理論言語学の一つの枠組みであるミニマリスト・プログラム(極小理論)に基づき、比較統語論研究を行っている。日本語、英語、スペイン語(カタラン方言)、ギリシア語などのデータを用いて、主語名詞句の統語的位置と数量詞句の解釈との関連をフェイズと呼ばれる統語的ユニットを仮定することで説明しようと試みている。近年導入された「ラベリング理論」(Chomsky 2015)が、これまで提案してきた言語間の主語位置の違いをどのように予測できるのかという点にも大変興味がある。</p> <p>また、国語学や日本語学が観察してきた興味深い言語現象の中で、生成文法理論が捉えることを避けてきた「話し手」や「聞き手」といった概念に関わる言語現象(談話やモダリティなど)に統語構造がどこまで関わる(べきな)のかといった問いにも興味がある。カートグラフィー分析は、統語構造に談話の情報を取り込む有力な手法の一つと考えられるが、このカートグラフィー的試みが、近年提案された「ラベリング理論」を含むミニマリスト・プログラムの枠組みと相反することなく、どのような位置付けであるべきものなのかも検討したいと思っている。</p>